

地区に憩いと交流の場を

「コミュニティカフェ」地名カフェふあみりい



11月5日（火）、地名集会所を会場に「地名カフェふあみりい」が開催され、地域のお年寄りなど10人ほどが集まりました。

今回は平成2年に地区で行われた演芸会のビデオ上映が行われ、お茶とお菓子を楽しみながらの鑑賞会となりました。

次々と画面に写る出演者に「あれは誰だ？」や「まだ若いなあ」などと笑い声を上げながら楽しいひとときを過ごす参加者の姿が見られました。

毎月2回、第1・第3火曜日の午前中に開催されるこの集まりは、地域の方に、ゆっくりとお茶を飲みながら楽しい時間を過ごせる場所を提供しています。

地名地区では今年の8月から、地域の方6人が中心となったコミュニティカフェの取り組みが始まっています。

「地名カフェふあみりい」の立ち上げを始めた八木朝子さんと椎野恵子さんのお二人からきっかけや想いなどを伺いました。

「ひとりの寂しさに」

地名地区でもひとり暮らしのお年寄りが増えるにつれ「寂しい」という声が聞こえていました。そういつたなか、町内各所で始まっているコミュニティカフェの取り組みを見て、「地名でもできないかな？」という話になりました。

「立ち上げに向けて」

最初は民生委員から声をかける形で地区内から有志を募ってみたのですが、区長さんや楽友会の会長さんなどの協力もあり、運営のお手伝いをしてくれるという方が6人集まってくれました。

その人たちを中心に、区内のボランティアだけで運営をしてみようということになりました。

「みんなが楽しめる場所へ」

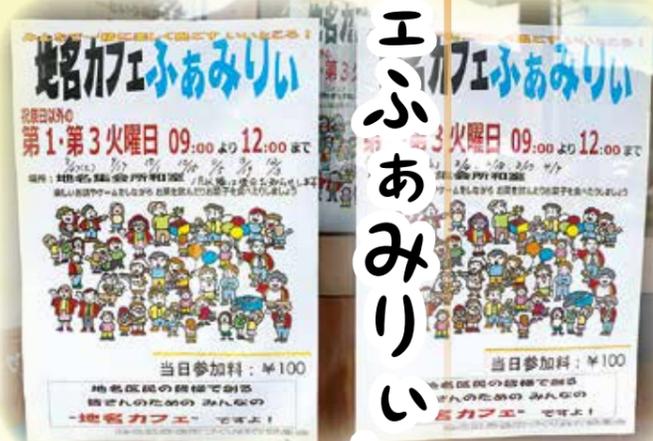
カフェと言っても、ただ集まってお茶を飲む場所というだけでは続いていきません。興味を持ってもらいたく来たくなる、参加者の手間にならない範囲で続けていけるような内容ができればと考えています。まだまだ手探りの段階なので色々試しているところですが、利用者が増えていけばもっと色々なことができる



今回行われた地区演芸会のビデオ上映会では、画面に映る懐かしい顔や自分自身の若かりし姿について語り合い、明るい笑い声が聞こえていました。

「コミュニティカフェ」とは、地域の住民にとっての「たまり場」や「居場所」になれる場所を提供する取り組みのことで、いわゆるカフェ（喫茶店）と異なるのは、地域活性化や保健福祉といったテーマを掲げ、高齢者や子どもなど多様な地域住民が集まることを目指していることです。

この取り組みは近年になって全国的な広がりを見せており、地域コミュニティの核として運営されているところも少なくはありません。



ようになるのではと考えています。

「他者とのつながりを」

どんな年齢層の方が集まってくれても大丈夫なのですが、平日の昼間ということや、やはりひとり暮らしのお年寄りの方が利用の中心です。介護などを受けていないお年寄りは他人と接点が少なくなりがちです、そういった方々がここに集まってくれています。

「続けていくために」

まだ初めばかりなので、もっと多くの方に集まってもらえるよう声かけをしていきたいです。クリスマスやお正月など、年中行事もこの集まりでできれば楽しめると思っています。地区の活動のひとつとして定着していければと考えています。



参加料は1人100円。9時からの開始時間に合わせて、ご近所の方が連れ立ったり、散歩の途中で立ち寄ったりと、毎回10～15人ほどの利用者が集まります。



ここに行けば誰かが居る。集まった仲間たちと語り合う。行けば自然と笑顔がこぼれてくる。そんな場所を目指して活動をしていきます。